

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年01月28日

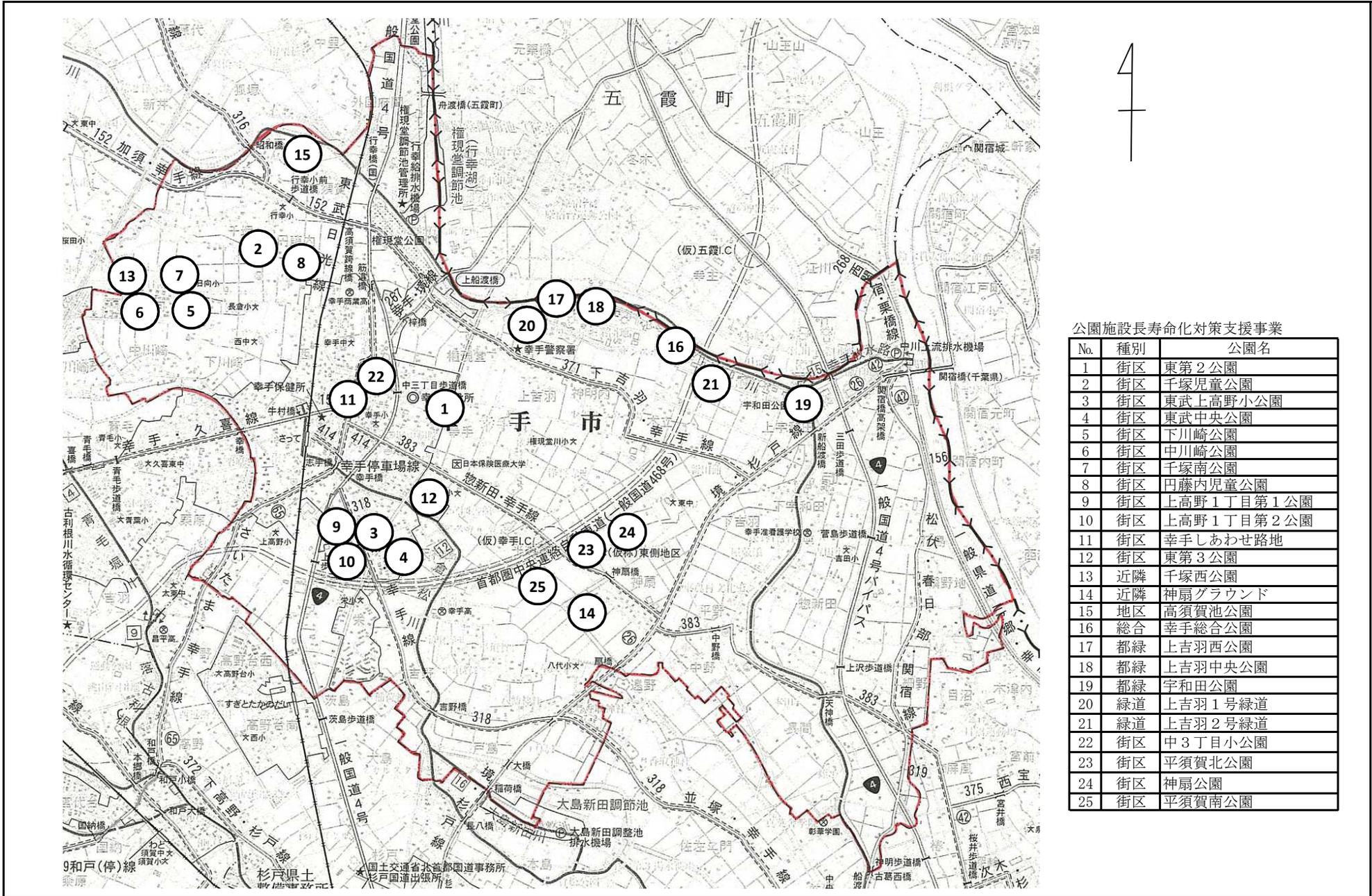
計画の名称	幸手市安全・安心な都市公園づくり(防災・安全)												
計画の期間	令和04年度 ~ 令和08年度 (5年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	幸手市												
計画の目標	幸手市では老朽化が進む公園が多く存在しているため、長寿命化計画に基づき計画的な更新をおこなう。 また利用状況や周辺環境の変化を調査し、適宜長寿命化計画の見直しをおこなう。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	150	A	150	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		令和4年度当初		令和8年度末
1	公園施設長寿命化計画に基づき、必要な改修・更新をした公園施設の割合を0%(令和4年度当初)から100%(令和8年度末)に増加 公園施設長寿命化計画に基づき、必要な改修・更新をした公園施設の割合(0% - 100%) 達成率(%) = 改修・更新した公園施設数 / 改修・更新予定の全公園施設数	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	○	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R04	R05	R06	R07	R08				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	幸手市	直接	幸手市	-	-	幸手市都市公園安全・安心対策事業	幸手市内公園にある遊具や施設の長寿命化対策事業	幸手市						150		策定済	
		平成27年度からの継続事業。																		
												小計						150		
												合計						150		

位置図



公園施設長寿命化対策支援事業

No.	種別	公園名
1	街区	東第2公園
2	街区	千塚児童公園
3	街区	東武上高野小公園
4	街区	東武中央公園
5	街区	下川崎公園
6	街区	中川崎公園
7	街区	千塚南公園
8	街区	円藤内児童公園
9	街区	上高野1丁目第1公園
10	街区	上高野1丁目第2公園
11	街区	幸手しあわせ路地
12	街区	東第3公園
13	近隣	千塚西公園
14	近隣	神扇グラウンド
15	地区	高須賀池公園
16	総合	幸手総合公園
17	都緑	上吉羽西公園
18	都緑	上吉羽中央公園
19	都緑	宇和田公園
20	緑道	上吉羽1号緑道
21	緑道	上吉羽2号緑道
22	街区	中3丁目小公園
23	街区	平須賀北公園
24	街区	神扇公園
25	街区	平須賀南公園

事前評価チェックシート

計画の名称： 幸手市安全・安心な都市公園づくり（防災・安全）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 上位計画等の整合性 1) 上位計画等整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえて計画の目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) 事業の必要性という観点から位置づけが高い。	○
II. 計画の効果・効率性 整備計画の目標と定量的指標の整合性 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 定量的指標に明瞭性 1) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 事業内容は、計画の目標を達成する上で適切なものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業効果は、数値、指標等を用いて客観的に示されている。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 2) 事業実施のための環境整備が図られている。	○
III. 計画の実現可能性 地元の協力 1) 事業実施に向け地元の協力がある。	○
III. 計画の実現可能性 地元の協力 2) 継続的な事業展開が見込まれる。	○

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R4	R5	R6	R7	R8
配分額 (a)	5.85				
計画別流用 増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	5.85				
前年度からの繰越額 (d)	15				
支払済額 (e)	19.65				
翌年度繰越額 (f)	1.2				
うち未契約繰越額 (g)	1.2				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%				
未契約繰越＋不用率が10%を越えている場合その理由	—				

※ 令和4年度以降の各年度の決算額を記載。